

行動

- ・ 課題のある教室に入るが机に座ろうとせず、すぐに遊びのスペースに向かってしまう。
- ・ 興味のあることは集中して取り組むことができるが、興味のない事や苦手な事には取り組もうとしない。
- ・ 椅子に座ることに抵抗があり、机に向かっても椅子に座らずに課題を始めようとする。

原因

- ・ 課題は「つまらないもの」だと認識している。
- ・ 「課題をやらなくても遊べる」という誤学習の積み重ね。やらなくても許可されるという誤った認識。
- ・ 課題量が分からず、ゴールが見えないという見通しの持てなさ。
- ・ 「早く遊びたい」という思いから、椅子に座る一手間を省略したいという早まった気持ち。

支援

- ・ 【アセスメント】 本人の興味関心を再アセスメント。昨年の記録や保護者からの意見に加え、本人とのコミュニケーションを通して興味関心をリスト化する。
- ・ 【動機付け】 「遊ぶのは課題を1つでもやってから」という動機付けを都度行う。課題に取り組めた際には遊びの時間を十分に楽しめるよう配慮する。
- ・ 【環境設定】 課題を棚に準備し、次に取り組む課題は見えないよう構造化する。今取り組む課題が明確になるよう支援。
- ・ 【環境設定】 リスト化した本人の興味関心に基づいた課題を準備。まずは課題に取り組むという行動を習慣化できるよう支援。
- ・ 【環境設定】 椅子を事前に机から離し、座った方が楽な状態になるよう配置する。

結果

- ・ 3ヶ月程度すると、椅子に座って課題に取り組めるようになる。現在は「課題が終わってから遊び」という流れが概ね習慣化し、課題の幅も広がっている。